

特色ある取組事例紹介

【施設名】 ふくやま美術館

【施設概要】

広島県福山市の中心部、福山城を望む公園の一角に建つふくやま美術館は、来年開館 20 周年を迎えます。JR 福山駅を降り、緑の葉をゆらす楠の並木道を進むと、白御影石で建造された正面玄関が見えてきます。周囲には最近寄贈をうけた清水九兵衛による鮮やかな朱色の巨大彫刻《双立》をはじめ、数多くの彫刻作品が点在しています。

福山市は、万葉の頃からさかえた港である鞆の浦や、芦田川河口から発掘された中世の町、草戸千軒などの歴史遺産を擁する城下町です。当館は 1988 年 11 月、長年の人々の要望にこたえ開館し、以来、作品収集、展示、その基盤となる調査研究、そして地域と美術館をむすぶ教育普及活動に積極的にとりくんできました。

今日、2000 点を越える所蔵作品は、地域の美術、日本の近・現代美術、イタリアを中心とするヨーロッパ美術、将来の先導的役割が期待される若手および中堅作家などを柱とする幅広い収集方針のもとで形成されたものです。このなかには、ジャコモ・バッラなど、イタリア未来派のまとまったコレクションも含まれています。日本近代美術では 2000 年に岸田劉生の《麗子十六歳之像》などを収蔵、これを機に 2003 年、「岸田劉生・麗子展」を開催しました。地域との結びつきから、17 世紀初頭の旧福山城伏見御殿の杉戸絵や、福山出身の近代建築家武田五一関係の資料など、ユニークな作品類も収蔵しています。

館内は、1 階に企画展示室、2 階に常設展示室があり、年 4 回の特別展、5 回の所蔵品展を開催しています。特別展は、茶の湯、イタリア美術、絵本原画展など、多彩なテーマで企画されますが、



ジャコモ・バッラ 《輪を持つ女の子》 1915 年

地方美術館の役割として、地域の芸術家や建築家の顕彰にも力を入れています。この他に市民団体の発表の場となるギャラリーや多目的ホールがあり、工芸版画室、デッサン室、講義室などの施設では、各種の実技講座が年間を通してひらかれています。館の周辺には、広島県立歴史博物館、ふくやま書道美術館、ふくやま文学館などが建ち、文化ゾーンをなしています。



美術館正面



美術館西側

【特色ある取り組み等】

① 特別展に関する活動

各展覧会ごとに、各団体とも協力しながら様々なプログラムが組まれます。例えば今年度でみると、春期の「名碗展」ではボランティアの協力で、無料のオーディオガイドの作成、貸出サービスを行いました。夏期の「甘美なる聖母の画家ペルジーノ展」では、ルネサンスの画家の展覧会にあわせて、子どもたちが伝統的なテンペラ技法に取り組むワークショップ「卵の絵の具でぬってみよう！」や、古楽器によるミュージアム・コンサートなどを開催。秋期の絵本原画展「ぐりとぐらとなかまたち 山脇百合子絵本原画展」では、ギャラリートークを「大人むけ」「子どもむけ」「乳幼児をつれた親むけ」など、対象別におこなうというきめ細やかな対応を用意しました。冬期の「三沢厚彦 ANIMALS+展」では、動物彫刻というテーマから、同じ市内にある福山市立動物園とのコラボレーション企画として、美術館での移動動物園の開催や、相互割引が予定されています。



ワークショップ「卵の絵の具でぬってみよう」より

② 所蔵品展に関する活動



所蔵作品、彫刻などのガイド類

美術館ボランティアによる「常設説明グループ」が結成され、来館する学校などの対応にあたるほか、月 1 回のペースで所蔵作品をピックアップして解説する「やさしいアート・ガイド」を開催しています。また、館が近隣の福山市立女子短期大学の学生たちと協力して作成したゲーム形式の野外彫刻のガイド「モニュメントたんけんマップ」は子どもたちに大人気です。

③ アートネットワーク

毎年、地域で躍進中の若手アーティスト 2 人を取りあげ、その個展と彼らによるワークショップを行う「アートネットワーク」は、アーティストと市民の交流の場となっています。



若手写真家 NORi のワークショップ「感じるデジタル写真」より

④ 児童画展覧会と病院展示

「ふくやま子ども平和美術展」と「世界児童画展」など年に 2 度大規模な児童画コンクールを開催し、どちらも 1 万点を超える応募があります。優秀作品は美術館で展示し、会期後も作品を保管しています。20 年近く蓄積された質の高い児童画は、貴重なコレクションとなっています。

そして今年度から、福山市民病院と協力のうえ、これらの児童画を院内に展示し、環境整備に役立てることになりました。病院関係者と協議や調査を重ね、病院内には、「安らげる場所」「生きる力を与えてくれる場所」といった気持ちを明るくする空間のみならず、「人知れず泣ける場所」ような、様々な患者の感情によりそう空間が必要であることがわかりました。これを踏まえ美術館側は、相談室、緩和病棟などそれぞれスペースにふさわしいと思われる作品を選定しました。例えば短期入院患者が主な病棟では、階ごとにテーマを定めて、目を楽しませるような色彩鮮やかな世界の子どもたちの絵を選び、長期入院患者が多い病棟では、物語を主題とした落ち着いた日本の子どもたちの絵を展示しました。このプロジェクトでは、作品は数年単位での貸出しの形をとり、患者などの反応を見たいうえで、入れ替えも行うことになっています。

【来館者数の推移】

2003（平成 15）	195,033 人	2004（平成 16）	160,714 人
2005（平成 17）	211,811 人	2006（平成 18）	168,177 人

【今後の展覧会予定】

▼ぐりとぐらとなかまたちー山脇百合子絵本原画展ー

2007年9月22日（土）ー11月11日（日）

絵本『ぐりとぐら』で有名な山脇百合子の絵本原画展。山脇は1962年に、童話『いやいやえん』（文：中川李枝子）の挿絵でデビューし、今日までに数々の絵本や童話を手がけています。本展はその原画約300点で構成される初めての大規模な回顧展です。



『ぐりとぐら』文・中川李枝子 福音館書店 1963年

▼冬季所蔵品展Ⅰ「ゆかいな動物たち」

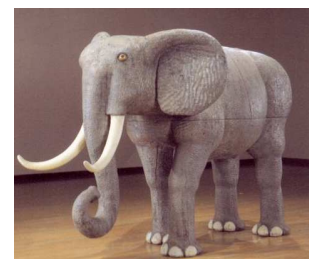
2007年12月8日（土）ー2008年2月3日（日）

アルトゥーロ・マルティナーニの彫刻作品《牛》など、所蔵品の中から、動物をテーマにした作品を集めます。

▼三沢厚彦 ANIMALS+

2007年12月22日（土）ー2008年3月9日（日）

現代彫刻の中で最注目されている作家の一人、三沢厚彦の仕事を紹介する展覧会。トラなどの野生動物をはじめ、イヌ、ネコといった親しみやすい動物たちなど、ユーモラスで生き生きとした木彫作品を中心に紹介します。



三沢厚彦 《Animal 2005-05》

▼冬季所蔵品展Ⅱ「名品セレクション」 特集：リクエスト展示

2008年2月5日（火）ー4月6日（日）

岸田劉生の《麗子十六歳之像》などの選りすぐりの名品を展示。また、一定期間、個人のお客様の要請に応じて特別に作品を展示する「リクエスト展示」は、昨年度大好評をいただいたため、引き続いての開催となりました。